

あいち 食品工業技術センターニュース

2012年4月号

- 今月の内容 ● 新年度あいさつ
● 平成24年度 研究テーマ
● 平成24年度 新体制および人事異動
● 依頼試験等の手数料のご案内

新年度のごあいさつ

センター長 来川 保紀



平成24年度を迎えましたので、ここにご挨拶を申し上げます。

愛知県は輸送用機械を中心としたものづくり企業が集積し、昭和52年以来製造品出荷額全国1位を誇ってきました。平成20年9月のリーマン・ブラザーズの破綻をきっかけに世界同時不況となり、日本経済を牽引してきた輸送用機械などの製造業は大きな打撃を受けました。その後、政府の積極的な経済対策と一部新興国の高度成長に牽引された形で、思わしくない中でもわずかな輸出増加などの効果で、景気回復に向かっていった矢先、昨年3月11日に東日本大震災が起きました。1,000年に一度とされる地震及びそれが引き起こした津波により、2万人近い人が死者・行方不明者となる痛ましい事態となりました。また、全電源喪失（ブラックアウト）といった想定外の事態により発生した福島第一原発事故によって放出された放射性物質は東北及び関東地方の一部を汚染し、まさしく未曾有の被害をもたらしました。さらに経済に打撃を受けているにも拘らずギリシャ財政危機に端を発したユーロ・ドル安、株安等日本経済の先行きには、懸念材料が山積してしまいました。今春ようやく（4月1日現在）、ユーロ110円台、ドル82円台、株高等の明るい兆しが見え始めました。とは言え、レアメタル

などの資源高やイラン危機（経済制裁）による原油の高騰、東電を始めとした電力の値上げというなかでエネルギーコストの増大も経済界の大きな悩みのひとつになっております。さらには多くの業種において設備や雇用の過剰感がなお根強く、デフレスパイラルの進行、需要の低迷、さらには海外展開といった大きな決断を迫られる案件もあります。また少子高齢化、若者の就職難、収入の世代間格差の拡大なども日本の将来への大きな不安として残っています。

このような状況のなか、愛知県では産業技術・科学技術の振興と組織の一層の効率化を図るため本年1月1日より「愛知県産業技術研究所」を「あいち産業科学技術総合センター」と名称を変更するとともに、本部機能を刈谷市からリニモの陶磁資料館南駅に隣接する愛知万博会場跡地に移転しました。これは愛知県がこれまで進めてきた「知の拠点」構想に基づくもので、平成24年2月14日に開所式を行いました。「知の拠点」は大学等の研究成果を、ものづくり産業の技術革新に繋げることを目的としており、大きく2つの施設、「中部シンクロトン光利用施設」と「先導的中核施設」からなります。これらの施設は産業界に広く利用されることを前提として、愛知県が計画段階から産業界、地域の大学の協力を仰ぎつつ準

備を進めてきたものです。特に「先導的中核施設」では現在3つの重要プロジェクトが進められています。その一つに食品に関する「食の安心・安全技術開発」プロジェクトがあります。これは異物検査による食品製造業へのものづくり支援として、「高精度検査により実現する安心・安全な愛知県産の食品・農産物の提供」を目的としたものです。本部ではこのような「食の安心・安全技術開発」研究プロジェクトを進める一方、名古屋市西区にあります当食品工業技術センターでもこれまで以上に現場指導を通じて企業の皆様の技術

ニーズを把握し、問題解決に取り組むとともに、地域資源を活用した新製品開発を進めてまいります。また、技術者養成のためにも研修生を随時受け入れ、また、最新の技術情報を提供するための講習会・研究会などを開催します。今後とも業界の皆様信頼される、地域に密着した技術支援機関として一層の活動の充実に努めてまいりますのでお気軽にご利用くださいますとともに、これまで以上のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。